

事業シート（概要説明書）

予算事業名	鈴鹿山麓研究学園都市センター管理費	事業開始年度	平成10年度
上位施策事業名	科学技術振興・交流の推進	担当部局	農水商工部
根拠法令	三重県鈴鹿山麓研究学園都市センター条例	担当室	産業集積室
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	グループ名	商工政策G
事業の必要性・実施の背景	<p>平成10年3月に制定された「三重県鈴鹿山麓研究学園都市センター条例」の規定（設置目的）に基づき、運営管理を行っている。</p> <p>当センターは、鈴鹿山麓リサーチパーク（三重ハイテクプラネット21構想の重点整備地区の一つ）の中核的施設として設置され、平成10年度から三重県科学技術振興センターが管理運営していたものであるが、平成19年度の三重ハイテクプラネット21構想の廃止及び三重県科学技術振興センターの組織廃止に伴い、鈴鹿山麓リサーチパーク全体の今後の展開を検討することになり、その検討が続いている中で、当センターは主に県民等に施設利用に供することを目的として農水商工部にて管理運営を行っているものである。</p>		
目的（何をどうするために）	<p>（条例に基づく目的） 科学技術に関する研究及び開発を支援し、科学技術の振興及び県内産業の高度化等を図るため。</p> <p>（当事業における目的） 条例に基づく目的を踏まえて、県民等に施設利用に供するため。</p>		
目標（何がどうなれば達成か）	<p>鈴鹿山麓リサーチパーク全体が、地域振興という大きな視点から今後の展開を整理でき、その中で当センターの位置づけを整理し直すことを前提に、それまでの間は、県民等の利益に供する観点から、最小限の施設管理費のもとで広く県民等の施設利用に供し、利用率を上げていく。</p>		
対象（誰・何を対象に）	<p>県民、県内企業、研究機関等</p>		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 又は <input type="checkbox"/> 指定管理（委託先又は指定管理者：有限会社ホームクリーン津営業所（施設管理））		
	<input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕（補助先： _____ 実施主体： _____）		
	<input type="checkbox"/> 貸付（貸付先： _____） <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）		
事業内容（手段、手法など）	<p>（1）鈴鹿山麓研究学園都市センターの管理業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃、設備管理、植栽管理</li> <li>・自家用電気工作物保守管理</li> <li>・夜間休日機械警備</li> <li>・エレベーター保守</li> <li>・ロールバック席、吊物装置、昇降ステージ保守点検</li> </ul> <p>（2）鈴鹿山麓研究学園都市センター施設利用の許可業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申請の受付（業務委託）</li> <li>・施設使用許可（県）</li> <li>・施設利用促進のための県ホームページによる案内、パンフレットの作成・配布</li> </ul> <p>※当該事業以下に細事業がある場合は、事業費とともに記載</p> <p>（ 条例に基づく事業は以下のとおりである。 ①科学技術に関する交流を促進するためにセンターの施設を利用に供すること（貸館） ②科学技術に関する講演会、講習会、研修会等の事業を行うこと ③科学技術に関する情報の収集及び提供を行うこと ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業</p>		
関連事業（同一目的事業等）	<p>なし</p>		

事業概要

事業シート（概要説明書）

予算事業名		鈴鹿山麓研究学園都市センター管理費				事業開始年度		平成10年度		
コスト	事業費	23年度（予算）		22年度（決算）		21年度（決算）		20年度（決算）		
		委託料	16,371千円		11,277千円		14,689千円		15,346千円	
		需用費	5,013千円		4,791千円		4,524千円		4,884千円	
		役務費	256千円		232千円		167千円		349千円	
		その他	647千円		83千円		38千円		1千円	
	事業費合計	22,287千円		16,383千円		19,418千円		20,580千円		
	人件費	担当正職員	0.15人	1,352千円	0.15人	1,428千円	0.15人	1,421千円	0.15人	1,402千円
		臨時職員等	0.00人	0千円	0.00人	0千円	0.00人	0千円	0.00人	0千円
		人件費合計	0.15人	1,352千円	0.15人	1,428千円	0.15人	1,421千円	0.15人	1,402千円
	総事業費	23,639千円		17,811千円		20,839千円		21,982千円		
財源 内訳	国庫支出金	0千円		0千円		0千円		0千円		
	地方債	0千円		0千円		0千円		0千円		
	その他特財	1,136千円		1,228千円		1,072千円		1,122千円		
	一般財源	21,151千円		15,156千円		18,346千円		19,458千円		
	財源合計	22,287千円		16,383千円		19,418千円		20,580千円		
事業実績	活動実績	【活動指標名】			単位	H22年度	H21年度	H20年度		
		①施設利用件数			件	166	98	65		
		②施設利用者数			人	2,744	2,828	1,740		
	※施設利用者数には、Mieこどもエコフェア及び四日市サイクル・スポーツ・フェスティバルによる利用者数を含まない。									
効率指標 (事業費/活動指標)	総事業費	/	①+②		6.1	7.1	12.2			
事業成果	成果実績 (事業目標達成状況)	【成果指標名】			単位	H22年度	H21年度	H20年度		
		利用率			%	12.5	10.0	6.7		
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)		<p>鈴鹿山麓リサーチパーク全体の今後の展開が整理できていないことに加え、当センターの利用状況が低い水準にあることが課題である。</p> <p>しかしながら、ハイブラ構想の廃止、三重県科学技術振興センターの廃止など、当センターを取り巻く環境が変化している中で、鈴鹿山麓リサーチパークには、I C E T T、県環境学習情報センター、テクノフロンティア四日市など、環境や人材育成などに関するポテンシャルの高い施設(機能)を備えており、将来的には付近の道路網の整備も計画されていることから、今後の県の政策展開にとって優位な条件を備えているものと認識している。そのため、鈴鹿山麓リサーチパーク全体の今後の展開を整理したうえで、当施設を資源として利用するべきものと考えている。</p>								
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)		なし								
特記事項 (事業の沿革等)		<p>平成3年1月、三重ハイテクプラネット21構想（以下「ハイブラ構想」）が国の承認を受けた。平成10年1月に、鈴鹿山麓リサーチパーク（ハイブラ構想の重点整備地区の一つ。以下「リサーチパーク」）内に、ハイブラ構想の中核施設として「三重県鈴鹿山麓研究学園都市センター」（以下「センター」）が整備され、平成10年度から三重県科学技術振興センターがセンターの管理運営を行うこととなった。</p> <p>その後、平成14年11月にセンターから国際規格審査登録センターが退去し、平成19年8月にハイブラ構想が廃止され、平成20年度から、県の組織改編（科学技術振興センターの廃止）に伴い、科学技術振興センターの撤退とともに農水商工部においてセンターの管理運営を行うこととなった。</p>								